

「あが家特製」伝統の力おにぎり」

愛知県立霞翠小学校 五年 野元 咲良

「おいしいね。なっかしい味がするね」

私が作。たおにぎりを食べた祖母が言った、

私にと。とてもうれしい言葉であった。

私が作。たおにぎりは、あが家の伝統のお

にぎりぞ、普通のおにぎりとはちよと違う。

どう違うかという、暑い夏を乗り越えられ

るように、塩を多めにつけていること、また

中には私の家の裏山で取れた竹の子が入って

いる栄養満点で、私の大好きなおにぎりだ。

そして、おにぎりが長く食べられるように、

竹の子の皮で包んでいるのも特別だ。

そんなおにぎりを私に最初に食べさせてく

れたのが祖母であった。初めておにぎりを食

べた時は、少ししょっぱくて、竹の子がごっ

ごっしていてあまり好きではなかった。でも

祖母が、家の裏山で取ってきた竹の子を何時

間もかけて湯がき、小さい子供でも食べられ

る様に小さく切って食べさせてくれたのだ。

私もだんだん好きになっ。てい。た。しかし、そんな祖母も歳をとり、体が弱くなり、おにぎりを作りをするのが難しくな。てきた。そこで、今度おにぎりを作。てくれたのは私の父であ。た。父も小さいころからわが家特製おにぎりを食べ。て育。た。という。運動会やマラソン大会にもそのおにぎりを食べ。て力を付けたという。そんな父のおにぎりは、祖母の味とは、少し違。ていたが思。あ。ず私も、「おいしいーおばあちゃんのおにぎりみた。よ。」と言。う。と父が。と。ても喜。ん。でくれた。今度。は私も祖母の特製おにぎりを作。ることにした。まず。は、竹の子を掘。りに行き、竹の子のあくを取。る。た。めに何。時。間。も。か。け。て。湯。が。い。た。火の近くは熱。く、長。い。作。業。で。待。っ。て。い。る。だ。け。で。も。う。か。れ。た。こ。ん。な。作。業。を。祖。母。は。し。こ。い。た。の。か。と。思。う。と。本。当。に。す。ご。い。と。改。め。て。感。じ。た。そ。して、い。よ。い。よ。お。に。ぎ。り。作。り。で。あ。る。塩。を。多。め。に。つ。け。て、竹の子を入。れる。穴。を。あ。け、そこ。に。竹の子を入。れる。簡。単。な。様。ぞ。意。外。に。難。し。

く形を整えるのも大変であった。形は、ここ  
ほこで不恰好だ。だが、祖母のおにぎりに少  
しは、近づけたかなと感じた。

そして、私には、もう一つすることがあっ  
た。それは、このおにぎりを、祖母に食べさ  
せることである。急いで竹の子の皮を取りに  
行った。そして、その皮に包んだおにぎりを  
施設にいる祖母の所まで父と届けにいった。

おにぎりを食べた祖母は、すごくうれしそう  
な顔で喜んでくれた。私は一生懸命作って本  
当に良かったと思った。

そんなおにぎりをまた作る人が増えた。私  
の姉と妹である。三人で作ったおにぎりは、  
それぞれ大きさも形も味も違う。それでも、  
おにぎりに込められた思いは全く変わらない。  
わが家特製の伝統おにぎりである。この夏休  
みは、姉妹でおにぎりを何回も作って祖母の  
所に届けた。その度に祖母が喜んでくれるこ  
とが一番うれしかった。これからも、特製お  
にぎりの味をずっと守り続けていきたい。